



頑張るあなたを独りにしない

名古屋市会議員

久田くにひろ

プロフィール

昭和58年12月31日生まれ。瑞穂区生まれ。
陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済
学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。
不二家・京セラ(KDJ)で法人営業に従事。

街頭活動

1,226回

7月末日時点

2期目が
スタート
しました

- ・教育子ども委員会
- ・防災エネルギー特別委員会所属へ

教育子ども委員会は教育委員会・子ども青少年局を所管しています。
今年度は、教育のこと、子どものこと、子育て支援のことを中心に審議を行っていきます。

インフルエンザ予防接種の無料助成へ

人生の節目にある子どもを応援するため、 接種費用を無償化

進学や就職などを控えた人生の節目にある子どもを応援するため、接種費用を無償化することになりました。今年2月定例会で名古屋民主市議団の代表質問で求めていた内容が予算化された形です。

対象者 令和5年度中に12歳、15歳、18歳を迎える子ども(名古屋市に住民登録必要)

時期 令和5年10月15日～令和6年1月31日

実施場所 名古屋市内協力医療機関

実施方法 9月下旬に対象者にクーポン券が送付されます。対象者がクーポン券を協力医療機関へ提示することで無料接種ができます。

12歳は2回分、15歳・18歳は1回分が無料となります。



8月31日(木)
10時から
瑞穂区役所講堂で
市政座談会を
開きます

ひとりひとりの声を大切に！中学生の声を市政に届ける

中学生の声

スクールランチのお米の量が多くて、残すことが心苦しい。そのため、スクールランチを注文できずに、自宅からお弁当を持参している。



久田くにひろ

スクールランチのお米の量が225gと人によっては多い。また、名古屋市の給食等では食品ロスが課題となっている。早急に利用者のニーズを把握し、改善点を検討すべきだと教育委員会に指摘しました。



その結果、今夏実施するスクールランチに関するアンケートにお米の量の項目が追加されました。





01 トワイライトにおける 夏休み期間等の昼食提供



瑞穂運動場東駅の街頭演説時の
市民の声を受けて、個人質問しました。



久田くにひろ

トワイライトを利用している保護者から、トワイライトで夏休み期間中に昼食を提供してほしいとの意見を頂いた。夏休みでは午前中から利用しているため、弁当を持参しなければならないが、共働き世帯であり、朝5時半に起きて、弁当を作る負担が大きいとのこと。本市の共働き世帯の割合は58.9%であり、核家族世帯は93%だ。家事などを頼れる存在が少なく、共働き世帯の家事の負担軽減は社会全体として切実な課題。放課後児童クラブで長期休暇期間中に昼食提供している自治体が札幌市・奈良市・広島市と増えており、本市でも実施すべきではないか？

今利用されている共働き世帯のことを考えると、早期に導入することが求められる。今年の冬休みなど、早期にモデル事業を行い、スムーズに本実施に繋げていくべきでは？

この事業を実施することは家事負担の軽減となり、子育てをしながら、働きやすい環境を整えていくことにつながると認識している。まずは、アンケート調査で保護者や児童の意見をお聞きし、注文の受付方法や代金の支払い方法等、様々な課題を整理しながら、例えば、保護者の方々が直接注文や決済をする対応が可能か調査を行う等、検討を進めます。



子ども青少年局長

モデル事業を早期に実施するため、調整を進めます。

02 高校生世代の子どもがいる 家庭の負担軽減



久田
くにひろ

本市の子育て支援策は、妊娠期、乳幼児期、義務教育期間の支援は実施しているが、高等学校期間については、様々な面で負担が増えてくるにも関わらず、支援は多くない。次期子どもに関する総合計画の策定にあたって、高校生世代の家庭の負担軽減について、検討すべきではないか。

次期子どもに関する総合計画の策定の中で、高校生世代の子どもがいるご家庭の課題や負担感などの現状について、把握・分析した上で、検討を進めます。



子ども青少年
局長

当事者にとって負担軽減は待ったなしの状態。計画策定を待たずして高校生の通学定期券補助制度など具体的な施策を実施するよう求めます。

03 オストメイトマークの 普及啓発



久田
くにひろ

当事者から、あなたが使うトイレではない、あるいは間に合わず漏れてしまった時には時間を要するため、長時間、何をしていたのと怒られ、オストメイトマークを提示しても理解されなかったとの意見を頂いた。内閣府調査では、オストメイトマークの周知度が25.2%と市民の中で認知が進んでいない。オストメイトへの理解を市民に広げ、オストメイトマークの周知を図るため、広報なごやなどによる広報や啓発ポスターをオストメイト対応トイレの近くに掲示するなど、より一層の普及啓発に取り組むべきでは？



オストメイトマークを提示しながら
本会議に挑みました。

※オストメイトとは？
様々な病気や事故などにより、お腹に排泄のための人工肛門・人工膀胱を造設した人。

04 熱中症対策における 一時的な避暑スポットの設置



久田
くにひろ

本市の熱中症による救急搬送者数は、平成30年の6月から9月で2048人を記録するなど、厳しい状況が続いている。国が熱中症対策の強化を示している一方で、先行して世田谷区、大府市では避暑施設の設置などを進めている。近年の猛暑で自宅から予防的措置として避難することのみならず、まちなかを歩いて移動する人を対象とする熱中症予防も求められるようになり、街中で気軽に一時的に暑さを避けて過ごせる場所を設置することは、都市部である本市では有効な熱中症対策ではないか？

議員ご提案のありました、広報なごやの活用や啓発ポスターをオストメイト用設備を備えたトイレの近くに掲示すること等、一層の普及啓発を図っていきます。これらを通じ、排泄について緊張と不安を抱えていらっしゃるオストメイトが、安心して外出できるよう、取り組みます。



健康福祉局長

市民が暑さを避けることができる場所を確保することは、熱中症を予防するうえで重要であることから、一時的な避暑スポットの設置について、公共施設だけでなく民間企業等との連携も含め、この夏に間に合うよう、設置に向けて準備を始めます。